

山形講座通信



「社会人育成山形講座」は、山形県内の多様な教育資源を取り入れながら、国公立の枠を超えた山形県内の高等教育機関、自治体および経済界が連携した共同教育プログラムです。これにより学生の社会人力（コミュニケーション力・課題解決力・リーダーシップ）を育成します。各授業の様子や本取組の詳細は以下のホームページに掲載しております。（<http://sodateru-y.jp/>）

【特集】山形講座の評価

山形講座では事業目的「山形の地域財産を活用しながら、学生に社会人として必要な能力を養成し、次世代の山形を担う人材の輩出を行う」の遂行に向けて、事業全体や各科目の教育成果を4つの方法で評価しています。これらの結果を元に改善をはかり、山形県の地域や企業に必要とされる人材を育成できるプログラムの確立を目指しています。

- ① 授業評価 : 学生、受入先(地域や企業の方々)、担当教員が各科目の教育効果について評価します。
- ② 社会人力評価 : 学生個人の社会人力を受講前後でとらえて、事業と各科目が持つ社会人力への影響を評価します。
- ③ 連携取組評価 : 連携機関(ステークホルダー)の視点から山形講座の取組全体を評価します。
- ④ 外部評価 : 外部有識者の客観的な視点から山形講座の取組全体と各科目の成果を評価いただきます。

本号のニュースレターでは、これらの評価方法とこれまでの結果についてご紹介し、それらから見てきた山形講座の現状と今後の課題についてご報告いたします。

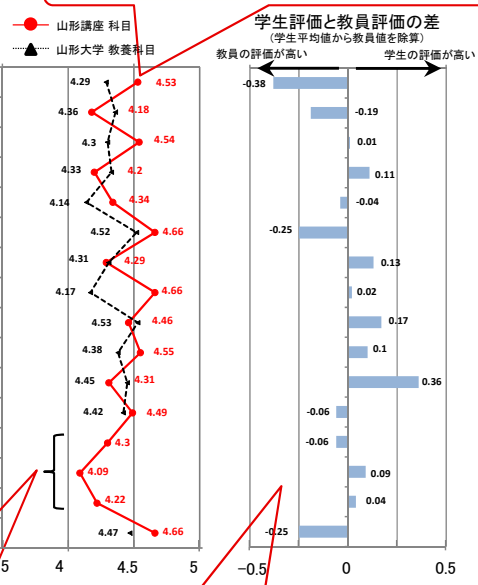
① 学生、受入先(地域や企業の方々)、教員による授業評価

山形講座で開講する科目では、受講生にアンケート調査を行い、授業の内容や学習環境について評価しています。同様の調査を教員も行い、学生の感覚とズレがないか確認し、授業環境を客観的に見直します。また、授業を受け入れて下さった地域の方々や講師の方々には、授業の様子や学生の能力、地域への影響などに関して評価していただいています。

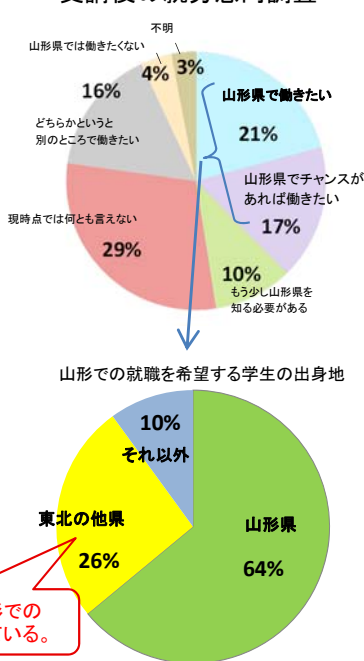
山形大学・教養科目を対象に行われている授業評価アンケートと同じ13項目を設け、従来の科目との比較ができるようになっている。

項目
1 この授業を意欲的に行いましたか
2 内容を理解できるように行いましたか
3 考え方、能力、知識、技術などの向上に得るように行いましたか
4 シラバスに授業の目標や授業計画は具体的に示しましたか
5 シラバスに成績評価基準と評価方法は具体的に示しましたか
6 熱意をもって行いましたか
7 考え方(授業法)はわかりやすいものでしたか
8 一方的な授業ではなく、受講生とのコミュニケーションをとりましたか
9 授業の準備は十分に行いましたか
10 聞き取りやすい話し方でしたか
11 板書や配付物、提示資料は読みやすいものでしたか
12 教室内の勉学の環境を良好に保つよう、配慮しましたか
13 受講生が地域の魅力に出会うように行いましたか
14 受講生が地域の現状をよく理解するように行いましたか
15 受講生が地域への社会的な興味関心が深まるように行いましたか
16 この授業を総合的に判断するとよい授業だと思いますか

座学を中心とした教養科目より、やや高い評価を得ている。



受講後の就労意向調査



「地域にふれる」という山形講座の目的達成を評価するため、独自の項目も設けている。

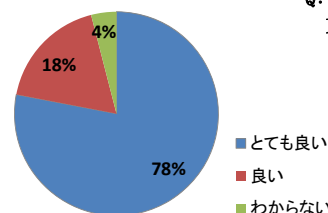
「地域にふれる」項目では評価が低く、より一層の努力が求められる。

評価の差は最大でも0.38と僅かで、学生と教員の感覚のズレは見られない。

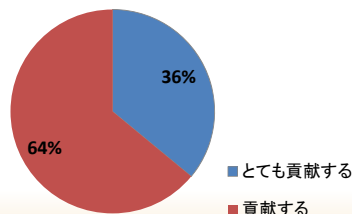
県外出身者にも山形での就職希望が見られている。

地域や講師の方々による授業評価

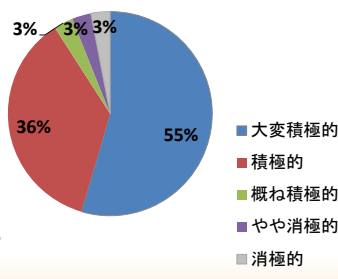
Q: 地域又はご自身にとって、全体としてこのたびの授業にどのような感想をお持ちですか？



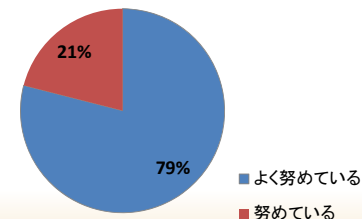
Q: このような授業が地域に及ぼす貢献度はどのようにお考えですか？



Q: 学生の受講態度はいかがでしたか？



Q: 学生が地域を理解できるように教員が授業への工夫や努力を行っていると感じましたか？

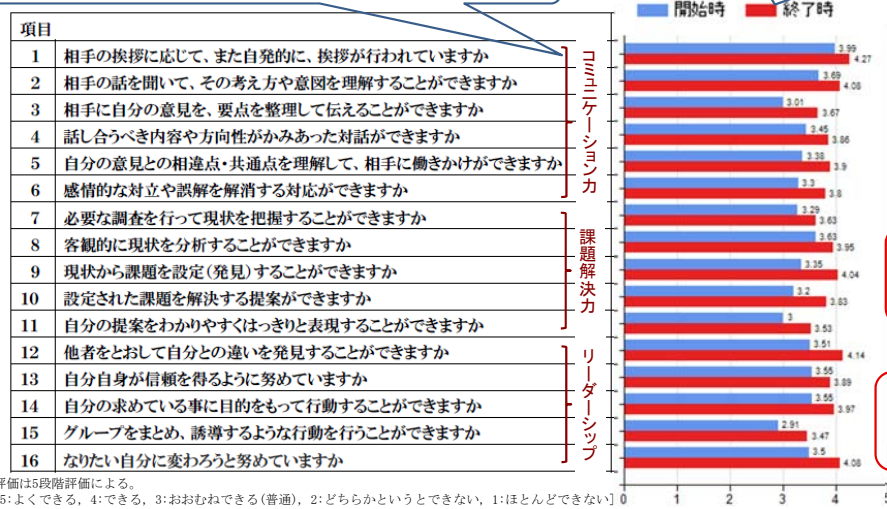


②学生の社会人力評価

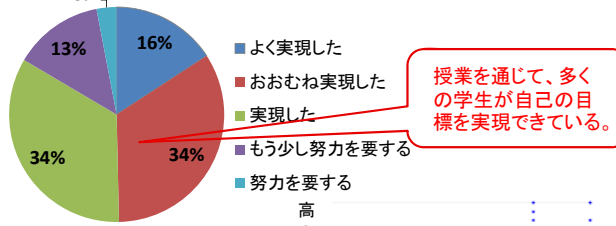
山形講座の目的の一つである学生の社会人力の向上が、事業全体および各科目でいかに達成されているか評価する目的で、受講生を対象にアンケート調査を行っています。受講前後で同じ項目に対して自己評価することで、受講を通じた変化を測定します。

山形講座独自の項目に対し自己評価を行います。3つの社会人力の要素を設け、どの能力が伸びたか分析できます。(下リーダー図参照)

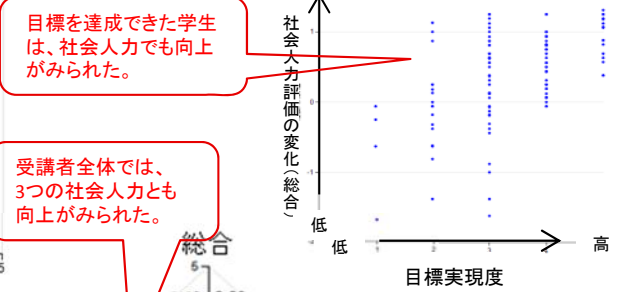
受講前後で値を比較すると、授業を通じた成長が見えてきます。



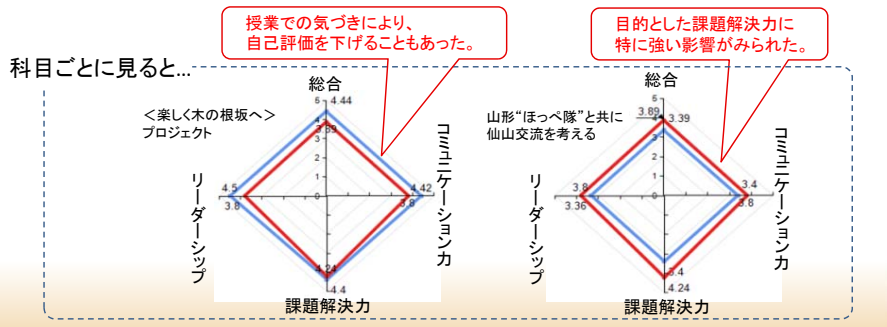
Q:履修にあたり設定した社会人力の目標に対する実現度はどの程度ですか?



授業を通じて、多くの学生が自己の目標を実現できている。



受講者全体では、3つの社会人力とも向上がみられた。



③連携機関(ステークホルダー)による連携取組評価

行政機関や経済団体の代表ら7名と教員で組織される連携取組評価部会では、事業の進捗状況を下記の項目について5段階で評価しています。各項目の回答平均値は3(普通)から4(良い)であり、多くの項目について概ね順調と評価されました。しかしながら、行政・政財界と連携や地元への就労意識の向上など本事業のゴールにむけた取組には、より一層の努力が求められています。

1. 大学の強みを発揮し、または補うような共同教育が確立されているか。

- ① 各科目のカリキュラム内容…3.50点
- ② 受講生の確保…3.66点
- ③ 単位互換履修者の一定程度の確保…3.80点
- ④ 内陸と庄内で共同教育を行うデメリット及びその克服策…3.60点
- ⑤ 受講生の出席状況と単位取得状況…4.16点
- ⑥ 担当教員から見た提出レポート内容と試験答案の出来…3.80点
- ⑦ 担当教員及び参観者から見た受講生の発言・質問・議論の充実度…3.57点
- ⑧ 受講生アンケートあるいは意見開陳等から見た受講生の授業満足度と習得度…3.60点
- ⑨ 社会人力の向上…3.16点

2. 学生の山形県内への就労意識を向上させているか…3.00点

3. 大学等と山形県をはじめとする行政・政財界との連携ができているか…2.83点

評価は5段階評価による。
[5:非常に良い, 4:良い, 3:普通, 2:努力を要する, 1:非常に努力を要する]

④外部有識者による教育評価

外部有識者による客観的な教育評価を目的とした、FD(ファカルティ・ディベロップメント)研修会を実施しました。清水修二氏(福島大学・特任教授)、角方正幸氏(株式会社大学改革・代表取締役社長)にお越しいただき、大学教育に関する豊富な知識と経験から山形講座の取組内容と今後の展開についてご意見を頂戴しました。その結果、山形講座の教員による今年度の授業報告

に対し概ね高く評価され、今後はより多くの学生に受講させる必要をご指摘いただいた。それに向けて、①起業教育やリーダーシップ教育で行われている講義形式や、事例を元に解決策を探るケーススタディ法などを取り入れる、②意識の高い学生が満足する内容に加えて、幅広い学生が参加しやすい授業内容の展開、③フィールドワーク週間などを設け他大学生に配慮するなど具体的な解決策をご提案いただいた。



活動報告

成果報告フォーラムを開催!

山形講座を広く周知する目的で開催したフォーラムでは、はじめに各教育分野の教員から今年度の開講状況を報告した。ここでは、受講生も登壇し、授業成果の「生の声」を会場に届けた。体験型授業「感じる山形(山形の森づくり体験)」を受講した学生は「森林を活用した幼児教育への興味から受講した。自分が学んだ山形の森の素晴らしさを、4月から働く保育園で子どもた

ちに伝えていきたい」と語った。続いて、「人間性豊かな社会人養成を目指して」をテーマにパネルディスカッションを行い、「倫理観や向上心が希薄なまま社会にでる若者が多い。その解決に向け、山形講座では団体活動や社会貢献活動、国際的な活動を提供して欲しい」「山形の魅力を感じ、山形を好きになってもらうことが重要」など山形を担う人材の育成へ期待されるご意見をいただいた。



スタッフ紹介

山形大学
教育・学生支援部
教務補佐員

尾形 睦

社会人力育成山形講座が開講2年が経ちます。昨年度は事業運営と授業開講に精いっぱいでしたが、今年度は少し「社会人力とは」「人材育成とは」と考える機会が増えた気がしています。今年度感じたことは「仕事人になることよりも社会人になることの方が重要で難しい」ということです。挨拶や約束を守ること、課題に直面しても躊躇して時間を無駄にせず、行動してみることが大切だと感じています。「社会人力育成」をテーマとしている事業です。なかなか完璧にはいきませんが、社会人として、基本的なことは守り、恐れずトライ&エラーしていかなければと思っています。